

特集

2024年11月10日 関東支部会報告

飯塚 礼子（日食情報センター）

1. はじめに

2024年11月10日（日）開成高校（東京都荒川区）にて関東支部会を行ったので報告をする。1年ぶりの対面開催を実施した。現在では、インターネットでのオンライン開催が気軽に行えるようになった反面、対面での支部会は様々な事務手続きがあり、開催に向かって準備項目が多いと感じた。しかしながら、顔を突き合わせての支部会は、参加者の熱意が直に伝わる感覚で、久々に新鮮さを感じた。

2. 開催内容

今回の支部会では、特別講演と招待講演をそれぞれお願いした。発表については7名から申し込みがあり8件の報告があった。

発表者からの寄稿もあるので、詳細な内容には、そちらをご覧頂きたい。

開催内容を以下に示す。

- ◆日 程 : 2024年11月10日（日）
13:00～17:30
- ◆開催場所：開成高校（開成学園）地学教室
東京都荒川区西日暮里、
- ◆プログラム：
 - ・主旨説明：飯塚礼子
 - ・特別講演1：鈴木秀彦「地球大気の高多様性 - 太陽系惑星との比較から考える」
 - ・発表1：小林道生「Wikipedia 日本語版星座記事の抜本的改稿による天文文化の普及（II）」
 - ・発表2：松本直記「seestarの測光変光観測の途中経過」
 - ・特別講演2：鈴木雄大「BepiColombo計画で探る宇宙空間環境と水星の関係」

- ・発表3：野澤恵「太陽活動の影響による宇宙物体の軌道変化」
- ・発表4：武田康男「夜空の超高層大気現象の見え方」
- ・発表5：友田哲「webカメラ Tapo C325WCでペルセ群を撮ってみた。」
- ・発表6：友田哲「宇宙機とアイドルの類似点（楽しい偶然）」
- ・発表7：田部一志「IPS2026 福岡へのお誘い」
- ・発表8：石川勝也「会場校より」
- ・天文台見学

なお、参加者は36名であった。

3. 特別講演

特別講演として、明治大学理工学部専任准教授の鈴木秀彦氏より「地球大気の高多様性 - 太陽系惑星との比較から考える」と題してご講演を頂いた。

鈴木秀彦氏は、2010年に総合研究大学院大学極域科学専攻にて博士課程を修了(博士(理学))された。その後、国立極地研究所研究員、立教大学助教を経て、2014年より明治大学理工学部物理学科に着任し、地球・惑星大気物理研究室を主宰でおられる。光技術を用いたリモートセンシングにより地球および惑星大気物理の研究を行っている。

フィールド観測経験として2度の南極観測隊参加歴がおありである。

惑星の大気を調べるためにはまず、地球の大気についてより正確に研究する必要がある。そこで、地球の大気現象を研究し、他の惑星の大気と比較することにより、惑星の性質が

解き明かされる可能についてお話された。

4. 招待講演

招待講演として、開成学園卒業生で ISAS/JAXA 日本学術振興会特別研究員の鈴木雄大氏に「BepiColombo 計画で探る宇宙空間環境と水星の関係」について、ご講演をお願いした。鈴木氏は国際水星探査計画「BepiColombo (ベピコロombo)」に携わっておられる。BepiColombo は 2018 年 10 月 20 日に打ち上げられ、地球スイングバイを含め、金星や水星でもスイングバイを 9 回実施し、2025 年 12 月に水星に到着予定ある。現在までの探査機の航行の様子と BepiColombo の計画についてお話いただいた。

5. 一般発表

・発表 1 : 「Wikipedia 日本語版星座記事の抜本的改稿による天文文化の普及 (II)」小林道生

「Wikipedia に掲載されている星座神話など、原本と異なる内容が見受けられる場合があります、改稿していることの報告があった。

・発表 2 : 「Seestar の測光変光観測の途中経過」松本直記

Seestar による映像から測光変光観測に必要なデータを切出しその成果途中のご報告があった。観測終了後、結果の発表を行うとのことで、その発表を更に待ちたいと考える。

・発表 3 : 「太陽活動の影響による宇宙物体の軌道変化」野澤 恵

発表の内容については、今回の冊子に寄稿頂いているので、ご覧頂きたい。

・発表 4 : 「夜空の超高層大気現象の見え方」

武田康男

武田氏が今まで撮影されてきた気象データ

も含めた画像を公開され、内容の説明をされた。

・発表 5 : 「web カメラ Tapo C325WC でペルセ群を撮ってみた。」友田 哲

発表の内容については、今回の冊子に寄稿頂いているので、ご覧頂きたい。

・発表 6 : 「宇宙機とアイドルの類似点 (楽しい偶然)」友田 哲

発表の内容については、今回の冊子に寄稿頂いているので、ご覧頂きたい。

・発表 7 : 「IPS2026 福岡へのお誘い」

田部一志

IPS2026 (国際プラネタリウム協会 2026 年大会) が福岡で 2026 年 6 月 15 日~19 日 (5 日間) 開催される旨のご紹介があり、参加についてご案内があった。

・発表 8 : 「会場校より」石川勝也

支部会を開催した地学教室のフロアーには広いスペースがあり、そこには生徒も参加した観測結果や天体写真の展示がなされていたなど、学校での取り組みの紹介があった。

6. おわりに

支部会終了後には、開成高校の天文台を見学させていただいた。

支部会開催準備の段階から、会場校の石川勝也氏には大変お世話になり、お礼と感謝の気持ちでいっぱいです。さらに、関東支部代議員をはじめ、運営に携わった方に改めてお礼を申し上げます。

終日、和やかな雰囲気に参加者の笑顔から感じた。

飯塚 礼子